meaning was there, ❶staring me right in the face.

Here was a race of creatures ❷capable of removing portions of their anatomy at will. Eyes, arms — and maybe more. ❸Without batting an eyelash. My knowledge of biology ❹came in handy, at this point. Obviously they were simple beings, ❺uni-cellular, some sort of primitive ❻single-celled things. ❼Beings no more developed than starfish. ❽Starfish can do the same thing, you know.

I read on. And came to ❾this incredible revelation, ❿tossed off coolly by the author ⓫without the faintest tremor:

… outside the movie theater we split up. Part of us went inside, part ⓬over to the cafe for dinner.

⓭Binary fission, obviously. Splitting in half and forming two ⓮entities. Probably each lower half went to the cafe, ⓯it being

かりそこにあって、私を正面から見据えていた。

つまりこれは、体のさまざまな部分を意のままに取り外しできる生物なのである。目、腕——まだほかにも外せるのかもしれない。まばたき一つせずに。ここで私の生物学の知識が役に立った。明らかにこれは、単純な、単細胞の原生動物である。ヒトデ程度にしか進化していない。ヒトデも同じことができるのである。

私は先を読んだ。そしてこの信じがたい公言を、著者が少しもおののくことなく、さもあっさりと行なっている箇所に行きあたった——

……映画館の外で私たちは二つに分かれた。私たちの一部は中に入り、一部は夕食を食べにカフェに向かった。

明らかに、二分裂。二つに分かれて、二個の個体を形成するのだ。おそらくカフェの方が遠いのでそれぞれの下半分がそちらに行き、上半分たちが映

❶ staring me right in the face: *I was so ashamed that I couldn't look her in the face.*（私は恥ずかしくて彼女の顔をまともに見ることができなかった。『コンパスローズ英和辞典』）などと同じ用法。right は強調。

❷ capable of removing portions of their anatomy at will: anatomy は辞書でまず出てくる定義は「解剖（学）」だが、このように（解剖学的観察の対象となる）身体そのものについて使うことも多い。at will: 自在に

❸ Without batting an eyelash: まばたき一つせず、平然と

❹ came in handy: 役に立った。come in handy は知識や道具についてよく使われる。*A hacksaw always comes in handy for cutting plastic pipes.*（ビニールパイプを切るには弓のこがつねに役立つ。*Longman Dictionary of Contemporary English, Corpus*）

❺ uni-cellular: 単細胞の

❻ single-celled: 1 行上の uni-cellular と同じ。

❼ Beings no more developed than starfish: せいぜいヒトデくらいしか進化していない生物

❽ Starfish can do the same thing, you know: ヒトデの腕は切れやすく、再生しやすい。一本の腕から完全な個体が再生される例もあるという。

❾ this incredible revelation: revelation は p. 14, l. 11 の “the next revealing passage”（次の意味深長な一節）の revealing と同じ発想で、何か大きな事実が明かされること、または明かされたその内容。*I was surprised by the revelation that our neighbor is a murderer.*（隣人が殺人犯だとわかって驚いた。『コンパスローズ英和辞典』）

❿ tossed off coolly: toss off … は何かをざざっと述べたり書いたりすること。*I tossed off a few letters.*（手紙を何通かさっと書き上げた。『ロングマン英和辞典』）

⓫ without the faintest tremor: 少しも震えることもなく。coolly とすでに形容したことのダメ押しという感じ。

⓬ *over to the cafe*: over はそこへ行くのに何かを越えていく、ある程度距離があるというニュアンス。*Please take this teapot over to the table.*（このティーポットをテーブルに持っていってください。『コンパスローズ英和辞典』）

⓭ Binary fission: 二分裂（一個体がほぼ等しい二つの新個体に分裂する）

⓮ entities <entity: 個体

⓯ it being farther: since it [=the cafe] was farther (than the movie theater)

… ❶*quite deliberately, Julia had given her heart to the young man.*

It didn't ❷relate ❸what the final disposition of the organ was, but I didn't really care. It was evident ❹Julia had gone right on living in her usual manner, like all the others in the book. Without heart, arms, eyes, brains, ❺viscera, dividing up in two ❻when the occasion demanded. Without ❼a qualm.

… ❽*thereupon* ❾*she gave him her hand.*

I ❿sickened. ⓫The rascal now had her hand, as well as her heart. ⓬I shudder to think what he's done with them, by this time.

… *he took her arm.*

⓭Not content to wait, ⓮he had to start dismantling her on his own. ⓯Flushing crimson, I ⓰slammed the book shut and leaped

はっきり意識的に、ジュリアは心臓を若者に委ねた。

最終的にこの器官がどう処理されたかは語られていなかったが、私にはどうでもよかった。ジュリアがそのまま、本に出てくるほかの者たち同様、普通に生きつづけたことは明らかであった。心臓も、腕も、目も、脳味噌も、はらわたもなしに、必要とあらば二つに分裂して。何の不安もなく。

……そうして彼女は若者に自らの手を差し出した。

私はムカムカしてきた。悪党はいまや彼女から心のみならず、手まで奪った。いまに至るまでに、こいつがそれをどうしたか考えると、思わず身震いしてしまう。

……男は彼女の腕を取った。

大人しく待つこともせず、自分から彼女を解体しにかかったのだ。顔が真っ赤になるのを感じながら私は本を乱暴に閉じ、飛び上がった。だがそれでも、

❶ *quite deliberately, Julia had given her heart to the young man*: deliberately はなかなか日本語一語で定義しにくいが、たとえば *Longman Dictionary of Contemporary English* では 1) done in a way that is intended or planned（意図・計画されたやり方で）; 2) done or said in a slow careful way（ゆっくり・慎重なやり方・言い方で）とある。ここもその両方がある感じ。give one's heart to … は普通は「〜が心から好きになる」の意。ただしたとえばボブ・ディラン初期の代表曲 "Don't Think Twice, It's All Right"（1963）には "I give her my heart but she wanted my soul"（彼女に心を捧げても彼女は魂を欲しがった）という一節があり、「心を与える」という具体的なイメージを捨てるべきではない。

❷ relate: 〜を物語る

❸ what the final disposition of the organ was: その器官（the organ）の最終的な処置（disposition）はどのようなものだったか。要するに、心臓を結局どうしたのか、ということ。

❹ Julia had gone right on living in her usual manner: right は p. 14, l. 16 - p. 16, l. 1 の "In any case, the full meaning was there, staring me right in the face."（いずれにせよ、意味はしっかりそこにあって、私を正面から見据えていた）の right と同じ強調の役割。

❺ viscera: viscus（内臓・はらわた）の複数形。「生々しさ」が感じられる言葉で、visceral として形容詞にすると「内臓に訴えるかのように生々しい」という意味。

❻ when the occasion demanded: 状況が要求すれば

❼ a qualm: 不安、懸念

❽ *thereupon*: その結果

❾ *she gave him her hand*: give … one's hand で普通は「〜との結婚を承諾する」の意。

❿ sicken(ed): 吐き気を催す

⓫ The rascal: 悪党

⓬ I shudder to think …: この一文だけ現在形になっていることに注意。「〜を考えると（いまも）ぞっとする」

⓭ Not content to …: 〜することに甘んじず、〜では満足せず

⓮ he had to start dismantling her on his own: この have to … は「〜しなければならない」ではなく、少し大げさにいえば「よりによって、けしからぬことに、〜という暴挙に走る」という意。dismantling <dismantle: 〜を解体する。on his own:（腕や心臓が差し出されるのを待たずに）自分で

⓯ Flushing crimson: 顔を深紅に染めて

⓰ slammed the book shut: 本をバタンと閉じた

"❶I was one of the quire-boys at that time, and we and the players were to appear at ❷the manor-house as usual that Christmas week, to play and sing in ❸the hall to ❹the Squire's people and visitors (❺among 'em being the ❻archdeacon, ❼Lord and Lady Baxby, and I don't know who); afterwards going, as we always did, to have a good supper in ❽the servants' hall. ❾Andrey knew this was the custom, and meeting us when we were starting to go, he said to us: ❿"Lord, ⓫how I should like to join in that meal of beef, and ⓬turkey, and ⓭plum-pudding, and ⓮ale, that ⓯you happy ones ⓰be going to just now! One more or less will make no

「当時私は聖歌隊の一員で、そのクリスマスの週、私たち聖歌隊と楽隊はいつものとおり地主様のお屋敷に行って地主様の御家族とお客様たちを前に広間で歌い、演奏することになっていた（お客様には大執事様、バクスビー卿と奥様、まだまだほかにもいらっしゃった）。終わったらいつもどおり、召使い部屋で美味しいごちそうにあずかることになっている。そういうならわしだとアンドリーも知っていて、そろそろ出かけようという私たちのところに寄ってきて、こう言った。『ああ、お前たちが羨ましい――わしも牛、七面鳥、プラムプディング、エールを御相伴したいものだ！　一人くらい増えようが減ろうが地主様にとって違いはあるまい。わしは歌う男の子として通るには年を食いすぎておるし、歌う女の子として通るにはあごひげが長すぎる。ご

❶ I was one of the quire-boys at that time ...: ここに取り上げたのは、*Life's Little Ironies* の中の、小品を集めたセクション 'A Few Crusted Characters'（crusted は「古めかしい」）に収められた 'Old Andrey's Experience as a Musician' と 'Absent-Mindedness in a Parish Choir' の二篇。便宜上、前者をひとまずの共通タイトルに使わせてもらった。どちらも、村を長年離れていた末に戻ってきた男に、彼がいないあいだに村でどんなことがあったか村人たちが代わるがわる物語る、という体裁を採っている。ここで語っている 'I' は Mr Profitt なる名前の学校教師。quire: choir（聖歌隊）の古い別綴り。

❷ the manor-house: 領主の邸宅

❸ the hall: 現代では hall といえば「玄関」だったり「廊下」だったりするわけだが、こういう領主様がまだ幅を利かせている文脈では「お屋敷」（すなわち前行の the manor-house と同義）あるいはその「大広間」の意になる。

❹ the Squire: 地主

❺ among 'em: among them

❻ archdeacon: 英国国教会の「大執事」。*Longman Dictionary of Contemporary English* の定義は 'a priest of a high rank in the Anglican Church who works under a bishop'。とにかく「偉い人」だと思っておけば十分。

❼ Lord and Lady Baxby: Lord は侯爵（marquess）や伯爵（earl）などの位を持つ貴族につける敬称。Lady も単に「ご婦人」ではなく、Lord の夫人に対する敬称。

❽ the servants' hall:「使用人部屋《大邸宅で使用人が食事をしたり休息したりする比較的大きな部屋》」（『研究社 新英和大辞典』）

❾ Andrey knew this ...: 作中ではこの人物は Andrew と呼ばれているが、タイトルに合わせて Andrey と直した。この前のセクションではこの人物の息子の物語が語られ、親子とも名は同じ Andrey だったと述べられている。

❿ "Lord, how I should like ...": この Lord は貴族の称号ではなく、「ああ」「おお」などと訳される感嘆の言葉。

⓫ how I should like to ...: should は現代人の耳にはやや古風。How I'd like to ... と短縮して言うのが普通だろうし、I'd は何の略かと問われれば I would とたいていの人は答えるだろう。

⓬ turkey: 感謝祭のご馳走といえば七面鳥、クリスマスのご馳走といえばやはり七面鳥。

⓭ plum-pudding:「刻んだスエット・干しブドウ・砂糖漬け果実皮・小麦粉・パン粉・黒砂糖・卵・香辛料・ブランデーなどをプディング型に詰めて蒸した菓子」（『リーダーズ英和辞典』）。Christmas pudding とも呼ぶくらいで、伝統的にクリスマスの菓子。Charles Dickens の *A Christmas Carol* (1843) でも、Mrs Cratchit が作ったプラム・プディングが出てくる場面はちょっとしたハイライトである。

⓮ ale: かつてはホップを入れる・入れないで beer と区別されたが、現在ではビールと同じと考えてとりあえず間違いではないらしい。

⓯ you happy ones: お前ら幸福な者たち

⓰ be going to: are going to。このようにこの小説内の話し言葉は時おり破格だが、ほとんどの場合文脈から判断できると思う。

to poor ❶wretched Andrey, who didn't even know ❷which end to take hold of. "Now we shall have ❸the full accompaniment," says she.

'Andrey's face looked as if it were ❹made of rotten apple as he stood in the circle of players in front of his book; for if there was one person in ❺the parish that everybody was afraid of, 'twas this ❻hook-nosed old lady. However, by keeping a little behind the next man he managed to ❼make pretence of beginning, ❽sawing away with his bow without letting it touch the strings, ❾so that it looked as if he were ❿driving into the tune with ⓫heart and soul. ⓬'Tis a question if he wouldn't have got through all right if one of the Squire's visitors (⓭no other than the archdeacon) hadn't

よ』。そうして御母堂は弓を渡してくださったが、哀れアンドリーはどっちの側を持ったらいいかもわかりゃしない。『これで全員揃った演奏が聞けるね』と御母堂はおっしゃった。

楽師たちの輪に入り、楽譜を前にして立ったアンドリーの顔ときたら、まるっきり腐ったリンゴみたいに見えた。何しろここいらへんで、誰もが恐れている人物が一人いるとしたら、それはこのカギ鼻をした年配のご婦人だったのだから。けれどアンドリーは、隣の男のややうしろにいるよう努めつつ、弾きはじめたような格好をしてみせ、弓を弦に触れずに上下させて、いかにも全身全霊、演奏に打ち込んでいるように見せかけた。あれでもし、地主様のお客の一人が（そう、ほかならぬ大執事様だった）アンドリーがフィドル

❶ wretched: 哀れなる。第 1 巻に収めた Ursula K. Le Guin, 'The Ones Who Walk Away from Omelas' では、町の人々全員が幸せになるために一人惨めな境遇を強いられている子供にこの形容詞が充てられている。'They know that if the wretched one were not there sniveling in the dark ...'（彼らは知っている。もしあのみじめな子が闇の中でメソメソ泣いていなかったら……）[p. 140, ll. 12-13]

❷ which end to take hold of: どっちの端（end）をつかむべきなのか

❸ the full accompaniment: 完全な伴奏

❹ made of rotten apple: apple を一個のリンゴではなくリンゴの「果肉」と考えれば rotten の前に a がないのも納得が行くが、まあ普通は a rotten apple と言う。

❺ the parish:「1 つの教会 (church) と 1 人の牧師 (parson) を有する区域で英国では行政上の最小単位」(『コンパスローズ英和辞典』)。伝統的にイギリスの「地域」を考える上できわめて重要な区分。

❻ hook-nosed: わし鼻の

❼ make pretence of ...: ～のふりをする。pretence はアメリカ英語では pretense。

❽ sawing away with his bow: 弓を使ってガンガン弾いて。saw は元来「のこぎりを挽く」。

❾ so that: なので、だから。本シリーズでも頻出。第 4 巻 p. 110, ll. 6-8, 'My mother has uncharacteristically spent nearly an hour on my hair that morning, plaiting and replaiting so that now my scalp tingles.'（母はその朝、私の髪を三つ編みにするのに母らしくもなく一時間近くかけて何度も何度も編み直したので、私の頭皮はいまチクチクしている）など。

❿ driving into the tune: そのメロディを奏でることに全身全霊を傾けている感じ。

⓫ heart and soul:「身も心も」と同様の決まり文句。

⓬ 'Tis a question if he wouldn't have got through all right if ...: if が 2 つ出てくるが、一つ目は「～かどうか」（whether）で、二つ目は「もし～なら」。したがって 'Tis a question if は「～であるかどうかは疑問だ、微妙だ」。get through ...（切り抜ける）は p.30, ll. 12-13 に 'But no sooner had we got through it than ...'（ところが、終わりまで来たとたん……）と、it を伴った形で既出。「もし～していたら、彼が無事切り抜けられなかったか、微妙なところだ」

⓭ no other than ...: ほかならぬ～、よりによって～。none other than とも言う。*The man was none [no] other than his father.*（その男性はほかでもない彼の父親だった。『コンパスローズ英和辞典』）

been ❶putting away in ❷Sidmouth. Well Roger ❸they're off and ❹as they go into the curve it's Stagehand then Dancer. Dancer's ❺morale seems to be ❻slipping already as he pauses to spit and ❼curse ❽the paper sack that's just split on him. Then it's Zen Buddhist, picking very well today, followed by ❾Androgyny and the ❿Macrobiotic Twins. Then Poet. Then Irishman. Then comes Actor, who'll probably ⓫knock off at lunch to ⓬go collect his social security again, ⓭then comes the pack hanging about by the trailer, and lastly ⓮off to a late start ⓯The Bloke With The Black Dog. ⓰It's still Stagehand's field, but there's a long day ahead of us and anything could happen yet. ⓱The unknown, The Bloke With The Black Dog, picks like ⓲a maniac ⓳at times. ⓴Just between the two of us Roger he's a very ㉑dirty picker and only takes the big ones but ㉒there we

ていくぜまずカーブに入ってくのが〈舞台係〉で次が〈ダンサー〉だ。〈ダンサー〉ときたら何だかもうやる気なくしちまってるみたいだな立ちどまってツバ吐いたり紙袋が破けて悪態ついたりしてら。お次は〈禅僧〉だ今日は快調な掘り具合だなそれから〈両性具有〉と〈マクロバイオティック双子〉。それから〈詩人〉。それから〈アイルランド人〉。その次が〈役者〉こいつはきっと昼メシどきに抜け出して失業保険もらいに行くねそれからトレーラーのあたりにうろうろしてる連中が来てしんがりの出遅れスタートは〈黒い犬を連れた男〉だ。まだまだ〈舞台係〉有利だけどとにかくまる一日(いちんち)あるわけだし何が起きたって不思議ないよな。〈黒い犬を連れた男〉ありゃ大穴だぜときどき狂ったみたいに掘るんだ。ここだけの話だけどなロジャーあいつ掘り方はけっこうセコくてさでっかいやつしか掘らないんだでもまあしょうが

❶ put(ting) away:（大量の飲食物を）平らげる
❷ Sidmouth: デヴォン州の、英国海峡に面したリゾート地。
❸ they're off: 彼らがスタートしたぞ
❹ as they go into the curve: 競馬中継を模している。
❺ morale: 士気
❻ slip(ping): 低下する、衰える
❼ curse: 〜を罵る
❽ the paper sack that's just split on him: たったいま（忌々しくも）破れた。on ... は「〜の不利になるように」の意。*The canary died on me this morning.*（《飼っていた》カナリヤにけさ死なれた。『リーダーズ英和辞典』）*It rained on us.*（雨に降られ（て困っ）た。『コンパスローズ英和辞典』）
❾ Androgyny: 普通名詞としての意味は「両性具有」。
❿ Macrobiotic: 日本ではマクロビオティックと発音されるが、英語では通常 /mǽkroʊbaɪátɪk /。
⓫ knock off:（仕事を）切り上げる
⓬ go collect his social security again: collect はこのように集金・支払い受け取りなどの意味で使われる。social security: 生活保護手当
⓭ then comes the pack hanging about by the trailer: come はこのように、Here comes ..., Now comes ..., Along comes ... といった形でよく使われる。the pack: 徒党、群れ。hang(ing) about by ...: 〜あたりにたむろしている
⓮ off to a late start: 出遅れてスタートして
⓯ The Bloke with the Black Dog: チェーホフの「犬を連れた奥さん」（英題 'The Lady with the Dog'）を思わせる。bloke はいかにもイギリス的な響きの「男」「奴」。
⓰ It's still Stagehand's field: たとえば lead the field といえば「トップに立つ」。
⓱ The unknown: 未知数
⓲ a maniac: 狂人。日本語の「マニアック」とはだいぶ意味が違い、発音も /méɪniæ̀k/。
⓳ at times: sometimes
⓴ Just between the two of us: ここだけの話
㉑ dirty: 卑劣な
㉒ there we are: まあ仕方ない。*Problems which I have been trying to solve for the last four months, without any success; for they are, so far as I can see, insoluble. So there we are. One lives and learns.*（この4か月ずっと解こうとして解けなかった問題。何しろ私が見る限り、解きえない問題なんだ。まあ仕方ない。生きていればいろいろ学ぶこともある。Aldous Huxley1957 年の書簡より。*Oxford English Dictionary* に引用）

to ❶be basketed. We considered briefly ❷a feasibility study during ❸a smoke break, hired a market research team and ❹computer time and ❺canvassed investment in the project ❻before stooping to pick another ❼umpteen sacks. At lunch, eating ❽marrow jam sandwiches in the trailer, ❾I proposed to the Great Potato Mother Convention in Minneapolis ❿a scheme for the self-picking potato, the SPP. ⓫The SPP grew little arms and legs. When ready, all Lord Clifton need do would be to walk through the fields playing ⓬Rose of Tralee on ⓭a little pipe, and all the potatoes would ⓮climb out of the ground and into the paper sacks, shaking themselves clean ⓯as they did so. And might they not peel themselves too? ⓰Aye, they might, Duncan ⓱affirmed, his mouth full of sandwich, ⓲his thermos

し、マーケットリサーチ・チームを雇い大型コンピュータをリースし、このプロジェクトへの投資を募ったが、やがてまた腰をかがめて無数の袋にイモを詰める作業に戻っていった。昼食どきにトレーラーのなかでカボチャジャム・サンドを食べながら、私はミネアポリスで開かれるグレート・ポテト・マザー大会に向けてセルフ＝ピッキング・ポテト、その名もＳＰＰプランを提案した。ＳＰＰは小さな腕や脚をみずから生やすジャガイモである。収穫時が来たら、クリフトン卿はただ、小さな笛で〈トラリーの薔薇〉を吹きながら畑を歩くだけでいい。イモたちはみな地面から這い出し、体をゆすって土を払い落としながら袋に入っていくであろう。ついでに自分で自分の皮もむくのではないか？　そうだよなありうるよな、と長靴のあいだに魔法瓶をしっかりはさんだダンカンも口いっぱいにサンドイッチをほおばりながら同

❶ be basketed: 籠に入れられる
❷ a feasibility study: 実行可能性調査。新規事業などが実現可能かを事前に調査・検証すること。
❸ a smoke break: たばこ休憩
❹ computer time: 大型コンピュータをリースして、一定期間利用できる権利
❺ canvassed investment in the project: このプロジェクトへの投資を募った
❻ before stooping to ...: A did B before doing C というパターンは「A は C をする前に B をした」よりも、語順どおりに「A は B をして（したが）やがて C をした」と訳す方が妥当なことが多く、ここはその典型。stoop(ing): 身をかがめる
❼ umpteen: 無数の
❽ marrow jam: marrow はペポカボチャ、ナタウリ。ショウガを一緒に使って marrow and ginger jam にすることも多い。
❾ I proposed to the Great Potato Mother Convention ...:「提案した」（proposed）はそういう提案の手紙を書いたということか。Convention は同志・同業者などの集い。たとえばアメリカで the Democratic National Convention といえば「民主党全国大会」。
❿ a scheme: 案、アイデア
⓫ The SPP grew little arms and legs: 過去形になっているのは、あくまでこの一節全体が過去形で書かれているためで、セルフ＝ピッキング・ポテトが本当に腕や脚を生やしたということではない。
⓬ Rose of Tralee: 19 世紀アイルランドの歌。The Rose of Tralee と呼ばれた美貌の女性が題材になっている。べつにジャガイモは出てこない。Tralee はアイルランド南西部の町で、毎年 The Rose of Tralee International Festival を開催している。
⓭ a [...] pipe: 笛。バグパイプのように笛部分が何本もあれば pipes というので、ここはもっとシンプルな笛。
⓮ climb out of the ground: 土の中から這い出す。climb はこのように、「登る」ではなく（out や in が次に来て）「這い出る・もぐり込む」の意味でも頻繁に使われる。第 2 巻 p. 24, ll. 14-15: ‘when the people started to climb out the windows bleeding’（血を流した乗客たちが窓から這い出してくると）
⓯ as they did so: そうしながら
⓰ Aye:「賛成」の意で広く使われる（p. 8 の “The Eyes Have It” という作品題名に関する註参照）以外に、特にスコットランドでは日常的に yes と同じように使われる。
⓱ affirm(ed): 肯定する
⓲ his thermos gripped between his wellies: 魔法瓶（thermos）をゴム長（wellies）のあいだでしっかり押さえて。wellies は wellington boots の略。

second, the ball still up there, ❶way up there, high over the right-center-field ❷bleachers, headed for ❸the upper deck, ❹talk about ❺a tape-measure shot, ❻another M-bomb from the Big M, ❼been doing it all year, he's rounding third, ball still going, still going, that ball was ❽smoked, ❾a no doubter, wait a minute wait a minute oh oh oh ❿it's outta here, that ball is out of the park, cleared the upper deck, ⓫up over the Budweiser sign, ⓬Jimmy can you get me figures on that, he hammered it clean outta here, ⓭got all of it, can you believe it, ⓮an out-of-the-parker, ⓯hot diggity, ⓰slammed

二塁ベースを回ってボールは依然空中を飛んでいます、右中間外野席のはるか上、スタンド上段に向かう、これぞまさしく特大の一発、ビッグMマクラスキーのM爆弾、今シーズンはずっと好調をキープ、いまサードを回って、ボールはまだ飛んでいる、まだ飛んでいる、まさにフルスイングの強打でした、おや待ってください待って、何と場外、場外に出ました。上段も越えてバドワイザーの看板も越えた、ジミー、データ頼むよ、いやー実にすごい、真っ芯に当たった一打、信じられません、場外打、何メートル飛んだでしょうか、大柄のバッターいまホームプレートを踏んでチームメート

❶ way up there: はるか上空に。way は強調で、第 2 巻 p. 24, ll. 1-2 に "[I] hated to see them disappear way off up the valley toward the next town"（〔列車が〕隣り町に向かって谷間のずっと奥のほうに消えていくのを見るのも嫌だった）の形で既出。
❷ bleachers:（屋根のない）外野席
❸ the upper deck: スタンド上段
❹ talk about ...: 〜とはまさにこのことだ。*Talk about rude! She slammed the door in my face!*（なんて失礼なんだ！　ぼくの鼻先でドアをぴしゃりと閉めやがった！『動詞を使いこなすための英和活用辞典』）
❺ a tape-measure shot: 特大ホームラン。1953 年に大打者ミッキー・マントル（当時 21 歳）が打った大ホームランの飛距離を巻き尺（a tape-measure）で測ったことに由来すると言われるが、実際に巻き尺を使ったという部分は神話。
❻ another M-bomb from the Big M: "M-bomb" は A-bomb (atomic bomb ＝原爆) や H-bomb（hydrogen bomb ＝水爆）のもじり。the Big M は「巨漢マクラスキー」。
❼ been doing it all year: it はホームランを打つこと。
❽ smoke(d):（ボールを）強打する。以下、本作品には「（ボールを）強打する／した」を意味する表現が頻出 : hammered it clean (l. 8), slammed it (ll. 9 - p. 180, l. 1), socked one out (p. 180, l. 4), scald it, drilled it (ll. 6-7), jack it (p. 182, ll. 10-11), blistered it (p. 184, l. 1), powdered it (l. 1), plastered that ball (p. 184, l. 5), paste it (p. 186, l. 6), whack it, shellacked it（p. 188, l. 8), that ball was spanked（l. 13）
❾ a no doubter: 文句なしのホームラン
❿ it's outta here: the ball is out of here (the ballpark)
⓫ up over the Budweiser sign:（最上段の屋根の上にある）バドワイザービールの看板も越えて
⓬ Jimmy can you get me figures on that: 記録担当のスタッフ、ジミーが登場。figures on that は「いまの一打に関する数字、データ（figures）」。
⓭ got all of it: "get all of it" で「会心の当たりを飛ばす」で、通常ホームランを意味する。*As a hitter, there have been instances where I felt that "Oh, I got all of it," but it ended up being caught deep in the outfield or bounced off the wall instead.*（打者として、「うん、これは行ったな」と思ったのにフェンスギリギリで捕られたり、フェンスに当たったりしたこともあります＝飛ばないボールが採用されてどう変わったかを問われた韓国野球リーグ選手 Heo Kyoung-Min の返答。April 23, 2019, *Fangraphs*）
⓮ an out-of-the-parker: l. 5 の no doubter と同じ発想の造語。
⓯ hot diggity: これは野球とは関係ない普通のスラング。「こりゃーすごい！」
⓰ slammed it a country mile: a country mile は a long way のユーモラスな言い換え。*There were no other houses within a country mile of where we lived.*（私たちの家の周り、ほかの家なんか全然なかった。*Cambridge Advanced Learner's Dictionary & Thesaurus*）

it a country mile, the big guy's ❶crossing the plate, ❷team's all over him, the crowd roaring, ❸what's that Jimmy, Jimmy are you sure, ❹I'm being told it's a first, ❺that's right a first, ❻no one's ever socked one out before, ❼the Clusker ❽really got around on it, ❾looking fastball all the way, got ❿the sweet part of the bat on it, ⓫launched a rocket, ⓬oh baby did he scald it, I mean he drilled it, the big guy is strong but ⓭it's that smooth swing of his, ⓮the King of Swing, puts his whole body into it, ⓯hits with his legs, he smashed it, ⓰a Cooperstown clout, ⓱right on the screws, the ball still going, unbelievable, up past ⓲the Goodyear blimp, ⓳see ya

の手荒い祝福を受けています、観客の声はいまや怒号、え何だってジミー、ほんとかいジミー、皆さん、史上初だそうです、そうです史上初、この球場で場外弾は誰一人打ったことがなかった、その偉業をマクラスキーが成し遂げました、ストレートをじっくり待ってガツンと当ててロケットを発進、いやーすごかった、大きな大きな当たり、パワーはもとよりそのスイングの滑らかさはまさにキング・オブ・スイング、全体重をかけ腰を一杯にためて渾身の一振り、殿堂入りものの一打、見事に真芯で捉えたボールはまだ飛んでいます、信じられません、グッドイヤータイヤの飛行船も通り過ぎ、see ya later alligator（ワニさんまたね）、はるか青空に上がっていきます、まだ飛ん

❶ crossing the plate: ホームプレートを踏んでいる
❷ team's all over him: all over ... は寄ってたかって手荒く祝福している感じ
❸ what's that Jimmy: what's that はよく聞きとれなかった言葉を聞き返すときのごく一般的な言い方。
❹ I'm being told ...: まさにたったいま言われているところだというニュアンス。
❺ that's right:「そうなんですよ」。まさかと思われるかもしれませんが……という含み。
❻ no one's ever socked one out before : out はこの場合 out (of) the ballpark の意。
❼ the Clusker: アナウンサーがその場の勢いで McCluskey のニックネームを作っている。
❽ really got around on it: *The Dickson Baseball Dictionary* によれば get around は "To swing the bat fast enough to hit the pitch"（振り遅れずにボールを捉える）。*If he [Ichiro Suzuki] can get around on an inside pitch, he has surprising pop for a player listed at 5' 9'' and 160 pounds.*（もしイチローが内角球もしっかり打てるとすれば、175cm、73kg のプレーヤーとしては驚くべきパワーだ：イチローがメジャーリーグにデビューした当時のジャーナリストの発言。*The Dickson Baseball Dictionary* に引用）
❾ looking fastball all the way: 直球が手元に来るまでじっくり見て
❿ the sweet part of the bat: バットの一番よく飛ぶ面。the sweet spot という言い方もある。
⓫ launched a rocket: ロケットを打ち上げた
⓬ oh baby did he scald it, I mean he drilled it: oh baby, boy などといった感嘆の語句のあとに、倒置形が来て内容を強調する、というのはよくあるパターン。*She was told women aren't supposed to travel alone. Boy, did she prove them wrong!*（女は一人で旅しちゃいけないと言われた彼女。身をもって証明、全然そんなことない！ Jacob H. Fries, *Inlander*, March 7, 2019）I mean と言って言い換えているが、別に大きく訂正しているわけではない。
⓭ it's that smooth swing of his: 大事なのはあの滑らかなスイングだ
⓮ the King of Swing: 元来は 1930 ～ 40 年に大人気だったスイング・ジャズバンドのリーダー Benny Goodman に使われた呼称。
⓯ hits with his legs: 腰をしっかり据えて打つ
⓰ a Cooperstown clout: 殿堂入りものの一発。Cooperstown はニューヨーク州中部の町で、野球発祥の地とされ、野球の殿堂（the National Baseball Hall of Fame）がある。clout はこれまた「強打」。
⓱ right on the screws: バットの真芯でとらえて。元はゴルフ用語で、昔の木製クラブのねじ留め（the screws）のある箇所が打面の中心だったことから。
⓲ the Goodyear blimp:（タイヤメーカーの）グッドイヤー社の宣伝用小型飛行船
⓳ see ya later alligator: 冗談めかした別れの挨拶。alligator が出てくるのは単に later と韻を踏むから。